

# 安全データシート

作成日: 2011/6/11  
 改定日: 2017/2/1

## 1. 製品名および会社情報

製品名  
 スーパー白液 180ml  
 製品分類  
 インキ  
 品番・記号  
 PSW2-180

推奨用途及び使用上の制限 建築における施工箇所への線引き等

会社情報  
 会社名: 株式会社TJMデザイン  
 住所: 東京都板橋区小豆沢3-4-3  
 連絡先: 品質改善グループ  
 電話番号: 03-3969-6606 FAX番号: 03-3969-7492

## 2. 危険有害性

### GHS分類

物理化学的危険性  
 健康に対する有害性

分類対象外または分類できない  
 急性毒性(経口) 分類できない  
 急性毒性(経皮) 分類できない  
 急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外  
 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない  
 急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) 分類できない  
 皮膚腐食性/刺激性 区分2  
 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2B  
 呼吸器感作性/皮膚感作性 分類できない  
 生殖細胞変異原性 分類できない  
 発がん性 区分2  
 生殖毒性 分類できない  
 特定標的臓器 全身毒性 区分1(中枢神経系、血液系、腎臓)  
 区分3(気道刺激性、麻酔作用)  
 反復暴露 分類できない  
 環境に対する有害性 吸引性呼吸器有害性 分類できない  
 水生環境急性有害性 分類できない  
 水生環境慢性有害性 分類できない  
 オゾン層への有害性 分類できない

### ラベル要素



注意喚起語  
 危険有害性情報

危険  
 皮膚刺激  
 眼刺激  
 発がんのおそれの疑い  
 臓器(中枢神経系、血液系、腎臓)の障害  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 眠気またはめまいのおそれ

### 注意書き

#### 【安全対策】

使用前に取扱説明書入手すること。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 指定された個人用保護具を使用すること。  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。

#### 【救急処置】

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。  
 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当を受けること。  
 汚染された衣類を脱ぐこと。そして再使用する場合には洗濯すること。  
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。  
 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当を受けること。  
 暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けること。  
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

【保管】 施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

特有の危険有害性 特に情報を有していない。

### 3. 組成、成分情報

単一、混合物: 混合物  
 化学名又は一般名: 水性顔料インキ  
 成分および含有量

成分名	CAS No.	含有量(wt%)	官報公示整理番号(化審法)
酸化チタン (IV)	13463-67-7	< 20	(1)-558
エチレングリコール	107-21-1	30 - 40	(2)-230
トリエタノールアミン	102-71-6	< 1.0	(2)-308
水溶性樹脂	-	< 5.0	-
水	7732-18-5	40 - 60	-

### 4. 応急処置

吸入した場合 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合 皮膚を速やかに洗浄すること。  
 医師の手当て、診断を受けること。

眼に入った場合 水で数分間、注意深く洗うこと。  
 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。  
 医師の手当て、診断を受けること。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。  
 医師の手当て、診断を受けること。

応急措置をする者の保護 救助者はゴム手袋、ゴーグル等の適切な保護具を着用する。

### 5. 火災時の措置

消火剤 粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、砂。  
 周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。

使ってはならない消火剤 棒状注水

特有の危険有害性 加熱により容器が爆発する恐れがある。  
 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生する恐れがある。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。  
 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。

消火を行う者の保護 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、  
 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
 風上に留まる。  
 低地から離れる。  
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
 関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。  
 環境中に放出してはならない。

回収、中和 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。  
 後で廃棄処理する。  
 少量の場合: 吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。大  
 量の場合: 盛り土で困って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

封じ込め及び浄化方法と機材 危険でなければ漏れを止める。  
 物質を固化して掻き取る。

二次災害の防止策 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

- 【技術的対策】 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 【局所排気・全体換気】 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体排気を行う。
- 【安全取り扱い  
注意事項】 使用前に使用説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
火気注意。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。  
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに飲食又は喫煙をしないこと。
- 【接触回避】 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

- 【技術的対策】 保管場所は屋根を不燃材で作ると共に、金属板その他の軽量な不燃材料で葺き、かつ天井を設けない事。  
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。  
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜を設け、かつ、適当なためますを設けること。  
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気設備を設ける。
- 【混触危険物質】 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 【保管条件】 酸化剤から離して保管する。  
施錠して貯蔵すること。
- 【容器包装材料】 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

本製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
高熱取り扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

- 【呼吸器の保護具】 必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。  
換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
- 【手の保護具】 必要に応じて個人用保護手袋を着用すること。
- 【眼の保護具】 以下の保護眼鏡を着用すること。  
普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型
- 【皮膚及び身体  
の保護具】 必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

衛生対策

取り扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	低粘性の白色液体
臭い		特有の臭気
pH		8.0 - 10.0
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		データなし
燃焼性又は爆発範囲	下限	データなし
	上限	データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度(空気=1)		データなし
比重(密度)		1.18 - 1.20
溶解度		データなし
n-オクタノール／水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
臭いのしきい(閾)値		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
燃焼性(固体、ガス)		該当しない
粘度		9.0 - 12.0 mPa・s
動粘性率		データなし

10. 安定性及び反応性

- 安定性 通常状態で安定。
- 危険有害反応可能性 空気又は酸素との長期間の接触により、過酸化物形成の可能性が高まる。
- 避けるべき条件 熱、スパーク、裸火その他の着火源。
- 混触危険物質 空気又は酸素との長期の接触、酸化剤、強酸、強塩基。
- 危険有害な分解生成物 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、アルデヒド、窒素酸化物等。

11. 有害性情報

組成物質の有害性及びばく露濃度基準

物質名	IARC	その他の有害性	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
				日本産衛学会	ACGIH (TLV)
酸化チタン (IV)	2B	LD50(経口 ラット) >20000mg/kg	未設定	未設定	10mg/m <sup>3</sup> (2009)
エチレングリコール	-	LD50(経口 ラット) 4000-10200mg/kg	未設定	未設定	100mg/m <sup>3</sup> (Aerosol Only)
トリエタノールアミン	3	LD50 (経口 ラット) 8680mg/kg	未設定	未設定	5mg/m <sup>3</sup> (2005)

急性毒性 経口 データ不足のため分類できない。  
 経皮 データ不足のため分類できない。  
 吸入(蒸気) データ不足のため分類できない。  
 吸入(ミスト) データ不足のため分類できない。  
 皮膚腐食性・刺激性 区分2に分類される以下の成分が10%以上含まれているため、GHS:区分2に該当する。  
 エチレングリコール (30% - 40%)  
 眼に対する重篤な損傷・刺激性 区分2に分類される以下の成分が10%以上含まれているため、GHS:区分2Bに該当する。  
 酸化チタン(IV) (<20%), エチレングリコール (30% - 40%), トリエタノールアミン (<1.0%)  
 呼吸器感作性 データ不足のため分類できない。  
 皮膚感作性 データ不足のため分類できない。  
 生殖細胞変異原性 データ不足のため分類できない。  
 発がん性 区分2に分類される以下の成分が1.0%以上含まれているため、GHS:区分2に該当する。  
 酸化チタン(IV) (<20%)  
 生殖毒性 データ不足のため分類できない。  
 特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分1に分類される以下の成分が10%以上含まれているため、GHS:区分1に該当する。  
 エチレングリコール (30% - 40%) / 標的臓器: 中枢神経系、血液系、腎臓  
 区分3に分類される以下の成分が20%以上含まれているため、GHS:区分3へ分類した。  
 エチレングリコール (30% - 40%) / 標的臓器: 気道刺激性、麻醉性  
 特定標的臓器毒性(反復暴露) データ不足のため分類できない。  
 吸引性呼吸器有害性 データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 データ不足のため分類できない。  
 水生環境慢性有害性 データ不足のため分類できない。  
 オゾン層への有害性 データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
 特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。  
 汚染容器及び包装 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則 海上規制情報 非危険物  
 航空規制情報 非危険物  
 国内規制 陸上規制 消防法の規定に従う。  
 海上規制情報 非危険物  
 航空規制情報 非危険物  
 特別の安全対策 輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。  
 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。  
 移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。  
 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。緊  
 急時応急措置指針番号 該当なし  
 国連番号 該当なし

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通ずべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) (酸化チタン, エチレングリコール, トリエタノールアミン)
化審法	既存点検(分解性・蓄積性)、既存点検(生態影響)(エチレングリコール)
PRTR法	該当しない
環境基本法	環境基準(水質-要調査項目)(エチレングリコール)
大気汚染防止法	揮発性有機化合物(VOC)、有害大気汚染物質(エチレングリコール)
消防法	第4類引火性液体(第三石油類・水溶性液体)(エチレングリコール, トリエタノールアミン)
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない

## 16. その他の情報

参考文献	各成分のSDS NITE GHS分類公表データ EU CLP Regulation, AnnexVI JIS Z 7252 (2009) JIS Z 7253 (2012)
------	--

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。